

令和7年度 北海道立教育研究所 運営懇談会 議事録

- 1 日 時 令和8年(2026年)2月24日(火)10時30分～12時
- 2 会 場 遠隔会議システム(Zoom)により、道研内の第3実習室と各構成員をオンラインで
接続
- 3 出席者
[構成員] ※敬称略
村松正仁(帯広市教育委員会教育長)、佐藤敏治(増毛町教育委員会教育長)、
高原直樹(深川市立深川小学校長)、野澤孝志(恵庭市立恵み野中学校)、
相馬利幸(北海道札幌西高等学校長)、奥田雅紀(北海道札幌高等養護学校長)、
山村健史(北海道PTA連合会事務局次長)、深見智一(北海道教育大学釧路校准教授)
[道立教育研究所]
所長以下の管理職員及び関係職員
- 4 議 事
 - (1) 開会
 - (2) 所長挨拶
 - (3) 議題「令和7年度事業報告・令和8年度事業計画について」
 - ア 説明・質疑
 - イ 意見・要望等
 - (4) 閉会
- 5 資 料
 - (1) 運営懇談会開催要項
 - (2) 運営懇談会資料(1～4)
 - (3) R7道研要覧

○質疑

【北川副所長】

今年度の事業報告について調査研究、研修、教育の振興の大きな3つの柱を元に説明をしたが、この件について御質問があればお受けしたい。

(質問等なし)

令和8年度の事業計画に関して説明をしたが御質問があればお受けしたい。

【増毛町・佐藤教育長】

複式学級の学習指導研修について。現在当町のある留萌管内でも小学校では8校で15の複式学級があり、今後全道的にもこの現象が広がっていくと思うので、複式学級の授業指導研修を力を入れてスピード感を持ってやっていただきたい。

【教育課題研究部：市村研究主幹】

へき地小規模校教育充実研修について、今年度、複式学級の経験がまだ浅い教員を対象に実施したところ、定員を上回る受講者がおり、かなりニーズが高いということが分かった。次年度

についても同様にへき地小規模校に関わる、まだ経験の浅い先生を対象に行い、先生の課題や悩みについても丁寧に対応していきたい。また、年間を通して講師と関われるような形を作りたいと考えている。また、次年度の研修の中で、複式学級を担当する先生方を対象に、より現場の声を調査し、課題を明確にする取組を行いたいと考えている。

【増毛町・佐藤教育長】

へき地小規模校の中の複式学級の指導研修について、当町は統合が進み、現在小1校中1校だが、中心校である増毛小学校にも今年度、複式学級が設置となった。これからはへき地小規模校の複式研修ということではなく、人口減少地域では中心校でも複式学級がどんどん増えていく時代になると思われるので、へき地小規模校という題目が変わらなければならないと思っている。

【教育課題研究部：市村研究主幹】

へき地小規模校と書かれているが、具体的には小規模校の先生も対象にしていきたいと考えているので、周知をする段階で、声をかけていきたい。

○意見・要望等

【北川副所長】

これからの道研事業について御意見御感想を伺ってまいりたい。調査研究、研修、教育振興の3本の柱ごとに伺う。調査研究ということで、今年度のプロジェクト研究では、小規模校の中学校同士をつなげた免外教員解消に向けた取り組みや中学校への円滑な接続に向けた同一中学校区内の小学校をつないだ取り組みなどを行ってきており、一定の成果があった一方で、持続可能な取り組みとなるための課題や、遠隔授業の日常的な実施に向けた検討が必要ということも見えてきている。こちらの遠隔教育の推進に関わって御意見御感想をお願いしたい。

【深川市立深川小学校 高原校長】

遠隔については令和7年度に北空知で進められている教育局主体の遠隔教育の取組と道研の遠隔教育の推進がどこかでリンクしたり、関わりがあるといったことがあったか。またそれぞれの研究成果は交流されているのか、それとも希薄な状態なのかが知りたい。

【教育課題研究部 市村研究主幹】

局との連携に関わって、道研のこの研究については、昨年6月に各教育局の教育支援課長と義務班主任、高校班主任を対象に説明会を行い、一緒にできるところや協力できるところは一緒に行いたいということでお話をしたところ。空知教育局は遠隔授業に関してかなり力を入れて取り組まれているということをお伺っており、局独自で取り組まれていると思うが、ある程度の内容については共有を図っているところ。

【北海道教育大学釧路校 深見准教授】

2点質問等をしたい。今年度「であえる」というマッチングシステムができたことや、研修参加者のGoogleチャットの取り組みが始まったということで、この遠隔授業やへき地小規模校の研修に関して、充実できるような取り組みがされたことを大変意味のあることだと思う。一方で、実際の先生方の使いやすさと、ニーズがマッチしてない部分もあるところが気になっている。例えば、Googleチャットについて道研の参加者としてのアドレスと、普段日常的に業務で

使用されているものが違ったりして、私もそうだが、アカウントがたくさんあり通知をオンにしていないものもあるので、なかなかそのチャットに入る機会がなく、活用されにくいといったところもある。より一層活用していただけるような取り組みや、働きかけが次年度行われると、さらに良くなると思っている。2点目、遠隔授業の成果の普及に関して、来年度3年目ということで、今年度までの成果の展開の広がりが期待されるところだが、これまで試行的に遠隔授業を実施した学校のその後の展開や、他の機関、他の大学等で行われている取り組みとの連携の可能性については、今後どのようにお考えなのか伺いたい。

【教育課題研究部 市村研究主幹】

今回、遠隔授業を行いたい学校をつなげる仕組みとして、「であえる」というマッチングサイトを作った。年度途中で作成をしたということと周知があまりうまくいかず、登録する学校数が現在4校と少ない状況が課題である。次年度、成果の普及の部分で研究を進めて、より活用が図られるようにしていきたいと考えている。また Google チャットについて、アカウントがたくさんできてしまうことや普段先生方がお使いのメールアドレスを使えないというところが、私たちが課題と捉えており、また苦慮しているところ。これは次年度についてまたさらに工夫していく必要があると考えている。2点目の成果の普及に関してだが、今回はある程度学校にお任せした部分もあったが、そうすると何を取り組めば良いのか分かりづらい部分もあったので、次年度については、道研からある程度、提案ができるようにしていきたい。また北海道教育大学へき地小規模校教育充実センターとは、これまでも連携を図ってきたところだが今年度広島大学の教育ビジョン研究センターの方からもお声がけをいただいたので今後連携を図り研究を進めていきたい。

【北海道教育大学釧路校 深見准教授】

個人情報のこともあり、なかなか難しいところもあるかと思うが、大変良い取り組みだと思うので、継続していただきたい。

【北川副所長】

続いて道研の研修講座のあり方などについて御意見、御感想、御要望があればお願いしたい。

【札幌高等養護学校 奥田校長】

昨年度、特別支援学校の教員が通常の教育の中での最新の動向を情報として学ぶ必要性について検討をお願いしたところ、今回、対象として来年度取り組んでいただけるということに非常に感謝している。やはり教育というものの連続性が今言われている時代で、進学の見ていると特別支援学級在籍の生徒が通常の高校に進学する場合や、通常の学級から特別支援学校、高等養護学校に進学する生徒もいることから、それぞれの教育がどのような方向に向かっているのかを互いに知ることはとても大事だと思う。今後も校長会としても先生方に道研の事業について周知し参加してもらうよう働きかけていくので、適宜情報提供いただきたい。また特別支援教育センターからの情報の方が特別支援学校の先生方には届きやすいという面があり、逆に通常の小中高校については、特別支援教育センターよりも道研からの情報の方が届きやすいということがあるので、互いに情報発信の部分で協力し合い、情報のチャンネルが2つになると、より届きやすいのではないかと思う。特に回答はいらないので、そういった部分で連携を図っていただければ、先生方にとってより良い研修の情報提供になると思う。

【北川副所長】

特別支援の方からのお話があったので高校からのお話も伺いたい。

【札幌西高等学校 相馬校長】

まず研修のこととプロジェクト研究にもつながってくると思うが、プロジェクト研究で研究された内容をそのまま教員研修でも先生方に情報提供してもらえると非常にありがたい。また、高校では悉皆研修以外で研修を受ける機会が限られているので、令和8年度の研修計画で、高校のステップアップ研修が増えたことに対して非常にありがたいと思っている。校長協会の中でもそういった情報を周知していきたい。

【北川副所長】

教員の育成というところでも御意見を伺いたい。

【帯広市教育委員会 村松教育長】

道立研究所の取組を春先の先生方が忙しい時期に、この要覧を配って終わりという形だと抜けがあったりすることから、様々な形で定期的に道研の研修内容を各学校に知らせる手立てもあると、先生方の意識が変わり受講率も増えるかと思う。新たな取組として、3つの新規の事業が計画されているが、非常に時宜を得たものだと思う。特に学校と地域の連携・協働の管理職研修は、今年、本市においても非常に力を入れたいと考えていたことから、校長先生方を含めて研修に送り出したい。

【北川副所長】

定期的な周知方法などについて検討しながら進めていきたい。ほか、研修講座、教員の育成などについて御意見等お願いしたい。

【恵庭市立恵み野中学校 野澤校長】

教志ゼミについて。今、教職を目指す学生が減っており、中学校でも高校生を対象に教員志望の学生を定期的に受け入れ、学校に興味を持ってもらう活動をしているところ。このような取組や研修を充実させ、教師の魅力を発信し、我々の後任となる学生の意欲を高めていただきたい。また令和8年度の日本語指導が必要な児童生徒への対応のプロジェクトについて、石狩管内で考えても外国籍の子どもや父、母のどちらかが外国籍の児童生徒が相当数増えており、対応できる教員の育成、研修が必要である。

【人材育成部 成田部長】

日本語指導について、道内各地で日本語指導が必要な児童生徒の数が増加している。先生方に指導のノウハウが広まっていないということが、リサーチで明らかになってきたところ。加えて、今年度のリサーチでは実際に日本語の指導をする先生方だけではなく、子どもを受け入れる際の学校の体制自体を見直し、整えていかなければならないということがわかった。来年度は、プロジェクト研究に格上げとなるが、そのことを全道に発信していけたらと考えている。

【北川副所長】

次に教育振興について御意見を伺いたい。保護者のお立場から御意見、御要望などありましたらお願いしたい。

【北海道PTA連合会 山村事務局次長】

PTAでは研修などを各地区で行っているところだが、講師の選定に悩むことが多い。そうい

う時に道研の方を派遣していただけると保護者としてはありがたい。

また、去年もお話ししたが、地域、P T Aと学校がどのようにつながったらよいかということ、非常に重く感じている。コロナ禍以降、保護者と教職員の距離が広がってしまったのではないかと、気軽に話をしづらくなってきているというような話をよく聞く。一方で、働き方改革を理由にP T Aとの関わりが減っているというところも、保護者の方からはよく聞かれる内容なので、その面でも令和8年度の研修事業11については、期待を持っている。

【北川副所長】

全体を通して、御意見、御要望等があればお願いしたい。

【深川市立深川小学校 高原校長】、

先進的な取組をする学校の視察など、相談する窓口はあるのかを伺いたい。視察について道研でアドバイスやマネジメントをしていただけるのか。

【人材育成部 成田部長】

道研では視察先リストを作成して、学校や教育委員会に紹介するような仕組みはできていない。各教育局の学校教育指導班等に御相談いただければ、それぞれがネットワークを持っていることから、お困りであれば教育局まで御連絡いただきたい。貴重な御意見として、どのような取組が可能であるか検討していきたい。

【増毛町教育委員会 佐藤教育長】

ギガスクール構想による授業での端末使用について、効果課題等の検証の計画はないか。昨年の返答では、本庁の担当課と意見交換しながら検討したいということだったが何か進展はあったか。

【人材育成部 成田部長】

関係課が端末の活用状況等調べており、それを受けて、道研の研修講座内で反映している。ただ、具体的に何かが変わったとか、学校現場での取組の具体や成果については、道研でまとめて何かの形にすることはできなかった。それぞれの研修講座では確実に端末の活用に係る内容を取り入れ、先生方に端末を使うことが目的ではなく、子どもたちの学びの充実のためには、端末が欠かせないということを、繰り返し研修講座でお伝えしている。

【増毛町教育委員会 佐藤教育長】

来年度、端末の更新を本町でも予定しており、多額の予算計上となる。町議会の場でもその効果や課題なども問われることになるので、国や道教委の情報がないかというところで質問したところ。

【北川副所長】

その他、御質問があればお受けしたい。

(質問等なし)

以上で本日の議事を終了する。皆様から大変貴重な御意見、御要望を賜り感謝する。